

<口腔内処置の手順>

1、X線検査：顎骨の診断

歯根・歯槽骨の診断

鼻腔内および形成する骨の評価

2、症状の評価：採食時の顔の傾斜、偏った咀嚼

唾液の過剰や異常色・悪臭、出血

口臭

口の違和感、口腔周囲の掻き創や汚染、前肢の汚染

食欲不振・廃絶

口内や歯、歯肉の疼痛

膿性および出血性鼻汁、くしゃみ、咳

3、口腔内の評価：口内炎・歯肉炎の診断

新生物・腫瘍の評価

歯肉の評価～特に歯肉の退縮

食渣や汚染物の遺残

歯石の評価

不整咬合や歯の過長・損傷、

歯のぐらつき

顎骨・顎関節の評価

骨・歯・歯肉の違和感や痛み

4、術前投与

抗生物質投与：歯肉炎や歯槽骨膜炎の治療として

特に、重症例や感染が重度の場合は、術前1～2週投与

菌血症・敗血症、多臓器感染症の予防

術中の抗生物質濃度を高める

消炎鎮痛剤：患部の炎症や疼痛のひどい場合の治療

術中術後の鎮痛に対する先制効果

5、ガゼン水による口内洗浄：口腔内の洗浄・殺菌

歯石の分解促進

脱臭・漂白・止血

菌血症・敗血症、多臓器感染症の予防

6、スクーリング（歯石除去）

歯石除去用の鉗子や歯石破碎器具、スケーラーなどで歯石除去を行います。本来、全身麻酔下で行うべき歯石除去ですが、無麻酔でも歯の外側の歯石はしっかりと除去できます。ただし、姑息的な処置であることを理解しておかなければいけません。

- ・ 基礎疾患や合併症、老齢などの全身麻酔の負担を考慮しなければいけない場合
 - ・ 軽症で簡易な処置で充分と考えられる場合
 - ・ 口唇周囲や口腔内の視診や触診、処置に我慢できる、あるいは保定で制御できる場合
 - ・ 取り急ぎ、口内の病状を良くしておきたい場合
- などが、無麻酔口腔処置適応となります。

～なぜ、全身麻酔をするべきか？～

- ・ 口腔内処置は、まずは細かく視診・触診などを行って評価する必要があります。また、細かい作業や処置が必要であるため、口をしっかりと開けること、動物が動かないこと、細かい部分や歯の裏側が視認できることなどが必要となりますが、無麻酔ではこれらはそれぞれ完全ではありません。
- ・ 口腔内の洗浄や薬剤注入、歯肉の辺縁や歯周ポケット、歯の裏側の処置は、麻酔下では行えないことが多く、実施できても完全ではありません。
- ・ 無麻酔で使用する器具は、歯の表面を出来るだけ傷つけないように処理されている特別な器具を使用しておりますが、それでも超音波による処置に比べるとキズをつけやすくなります。また、麻酔下で行うスクーリング後のポリッシングは、これらの薄いキズをさらに除去します。これらが実施できないと、歯の表面は歯石の付着しやすい状況をずっと残すことになります。
- ・ 口腔内処置は、どうしても痛みを伴い、動物には恐怖や嫌悪感を生じさせます。全身麻酔では、これらの嫌な体験を感じずに済みます。気持ちよく眠っている間に終わります。

7、全身麻酔下でのスクーリング（超音波・ワゴン水による歯石除去）とポリッシング（歯表面の研磨）

歯の表面を傷つけずに歯石を除去し、さらに既に形成されている細かい傷を研磨することで、出来るだけ歯石の付着しにくい状態を作ります。

また、歯肉と歯の付着部分や歯周ポケット、特に歯肉退縮部を含み、しっかりと歯石を除去する。

8、ワゴン水による口内洗浄

9、抜歯：重度の歯肉退縮

歯根や歯槽骨の病変部

歯周囲膿瘍や歯槽骨膜炎部
咬合により疼痛がある部分
損傷・欠損歯
骨融解特に頬や鼻腔との境界部

顎の血流の維持を考えると、極力歯は残っていたほうが良い。ただし、歯石により歯がやっとな肉につながり維持されている場合やぐらいついている歯は、咬合時に強い痛みを発するだけでなく、すでに歯槽骨膜炎を呈している可能性が高いため、抜歯が必須となる。

歯が正常に見えても、歯根や歯周囲、歯槽骨に病変がある場合や痛みがあるとき、歯をそのまま維持すると炎症や膿瘍は骨に浸潤していくため、早期に抜歯が必要である。歯自体もすでに壊死を起こしているため、既に寿命は尽きており、遺残させる病害が危険である。またこれは、骨髄炎や顎骨折、骨融解の危険を回避する方法でもある。

抜歯の手順

- ① 歯石除去および歯の洗浄
- ② 歯肉の剥離またはフラップ[°]切開・形成術
- ③ 境界上皮・靭帯の切開、歯肉の剥離
- ④ 歯槽骨の削除
- ⑤ 抜歯
- ⑥ 止血・洗浄

10、抜歯痕部のオゾン水洗浄、歯石・膿瘍除去、歯槽骨搔爬・削除
同部および歯周ポケットへの薬剤注入

11、歯肉新生物・腫瘍の切除、レーザー切除・蒸散
歯肉炎・口内炎部のレーザー照射・蒸散
抜歯痕のレーザー照射・蒸散

12、日常のオーラルケア

- ・ 食後の飲水
- ・ 口内の洗浄・清拭
- ・ ハミガキ
- ・ デンタルリンス
- ・ 外用薬：ヨードグリセリン、LIVAM^{III}、VC、IFN
- ・ 内服薬：ラクタフェリン、VC、IFN、免疫調整効果のあるサプリメント・漢方薬